



2014年(平成26年)
7月26日
第3号

天理医学技術学校同窓会報
発行所:〒632-0018
奈良県天理市別所町80-1
天理医療大学内
天理医学技術学校同窓会事務局
TEL: 0743-63-7811
www.teniko-dousoukai.jp

天理医学技術学校も 遂に発展的閉校となりました!

天理医学技術学校 同窓会長 市村輝義



をはじめ、全国各地に送り出されたこと
になります。

閉校式は午前10時から看護棟4階の
講堂で、来賓、卒業生ら250人が集まり、
遙拝、よろづよ八首奉唱の後、物故者へ
の黙祷を奉げ、次いで真柱様のお言葉
(要旨は「一手一つ」第3号に、全内容を
「閉校記念誌」に掲載)があり、横山一郎
天理よろづ相談所理事長の挨拶、奥村
秀弘天理医学技術学校長の式辞、山澤
天理教内統領、吉田修天理医療大学長
の来賓挨拶がありました。最後に「仰げ
ば尊し」「蛍の光」を全員で斉唱し、午前
11時過ぎに閉式となりました。

その後、招待者と卒業生に分かれ、閉
校記念パーティーが催され、招待者(真柱
様はじめ来賓、恩師、教職員など)は医
学技術学校棟5階の食堂で、上田純治

世話部長挨拶、高橋浩前天理
医学技術学校長の挨拶があ
り、市村輝義天理医学技術学
校同窓会長の乾杯が始まり、
約1時間のパーティーが行わ
れました。一方、閉校式に遠方

からも駆け付けた約200名の卒業生は、
看護学院棟の3つの大教室に各期ごと
に集まり、閉校を惜しみながら、和気
藹々の中、親交を温め合い、午後2時頃
解散となりました。

永年に亘る天理医学技術学校の大き
な特徴は、日本唯一の宗教を背景にした
臨床検査技師学校であること、そして、
戦後日本に導入された化学や血液を中
心とした「臨床病理学」(現在の臨床検
査医学)の流れをくみ、日本の臨床検査
のパイオニアとのプライドを持った環境
で教育がなされたことでした。また、大
病院(憩の家)に付設された学校でもあ
り、環境に恵まれ過ぎるほどの中で技師
教育が展開され、『天理の臨床検査技
師』と高く評価されることとなりました。

われわれ卒業生は、獲得した財産を
出来る限り多く社会に還元したいもの
です。この47年間の天理医学技術学校の
実績は、多くの方々から評価され、正真

正銘の臨床検査技師を世に送り出すこ
とが出来たことを互いに喜び、この伝統
が少しでも「天理医療大学 臨床検査学
科」へ引き継がれることを期待し、天理
医学技術学校同窓会としても出来る限
りのバックアップをしたいと考えていま
す。

感謝を籠めて・・・ 合掌

Topics 最後の国家試験で 8年連続合格率100%!

最後の卒業生も無事全員が国家試験
に合格しました。8回連続100%です。17
期生より100%の連続記録が始まり、28
年間のうち、何回か100%合格を逃した
年がありました。合計して21回の
100%合格を達成しました。このことは、
60回の臨床検査技師国家試験の歴史の
中でも類を見ない、全国随一の合格率で
した。医療職の国家試験で、最も難関
(合格率の低い)な国家試験で、このよう
な成績が残すことができたのは、臨床検
査技師教育の環境が理想的であり、「先
輩が後輩を教育する」という伝統の結
果であると思います。卒業生は、多いに
胸を張り、邁進して下さい!

(市村輝義)

【天理医学技術学校閉校式特集】

閉校記念パーティーでのご挨拶

元 天理医学技術学校 学校長
高橋 浩 先生

大変高い席からのお話恐縮に存じます。

医学技術学校の最初は衛生検査技師学校という名前でしたが、この1年の準備期間、その後、臨床検査現場の責任者、検査技師養成の責任者として検査技師の養成に関わってまいりました。約30年間勤めさせて頂きました。当初は、臨床検査自体がまだ未熟でございました、だから始まった頃に臨床検査のことを知っているドクターがほとんどいない。自分で検査したという人も

1人もいない、そういう状態でした。

しかし、その頃から急速に臨床検査の評価が高くなって、臨床からの要望が非常に多くなりました。しかし、学校の方には、教える人も十分にいない、それで「現場に行つて、病院に行つて、検査を見習いながら教えてもらいなさい。」というふうな、夜間制が2期続きました。非常に苦しいと言いますか、過酷な状態でした。「憩の家」の検査部は、「臨床病理部」と称しておりましたが、絶対に依頼された受付は断らないという事でやりました。

今思いますのは、その頃非常に過酷な状態でしたが、皆さんが職員の方が頑張っていたか、そしてそれには検査技師学校の初期の学生さんが非常に手伝っていたか、深

夜まで働いて下さいました。私は、「これは実習である。」と本当大変失礼なことを言いながら検査の仕事をやっていただきました。おかげで、本部の諸井慶五郎理事長並びに東井三代次世話部長先生に本当に心がけて頂き、バックアップして下さい、そして暖かく職員がして下さいました。

本当に先程から申しておりますように、臨床検査自体は誰もよくわからない。しかし、だんだん、臨床検査の評価が高まってくるについて、どうも検査技師学校は必要なものであると認識されるようになりました。今では本当に臨床医学の診療のベースになる、基礎になる、土台になるという状態になるまで来て、そして幸い、この「憩の家」のそして教会本部のそのおたすけ、まあ応援といえますか、援助して頂きました。立派な学校に育つて今日、こうしてこのような盛大な閉校式といえますか、閉校式と申すのでしょうか、本当に名前はちょっとあまりよくないですけど、これからの生まれ変わって、衣を新たに再出発するという、これから出発するとい、本当にうれしゅうございます。当初

は各種学校でございましたが、やがては大学になるだろうと思っておりました。この学問に私はふとしたことから首を突っ込んでそのままになっていまして、このような時期が、状態が、そして幸い長生きしまして、このような高い所から挨拶できるとは到底思いませんでした。

閉校式での「蛍の光」「仰げば尊し」ですが、これは1期生の卒業式の時、歌をどうしようということになって、その後本当に大変な時期でしたので、これを送る歌、卒業式の歌にしようと言ったのが、今日またそれを聞きまして本当に驚くやら嬉しいやらでございました。

つまらぬおしゃべりをしてしまいました。初めは原稿をちゃんと作って来るように、いや行くように思っておりましたけれど、まあ時間もないし、そしてその場の状況でお礼の言葉を申せばいいと思つて、大変失礼いたしました。どうもありがとうございました。

閉校式の天理時報記事より(抜粋)

半世紀の歴史に幕 「往還路を心して勇んで力強く」 理念と伝統を継承

昭和42年、天理衛生検査技師学校として開学した天理医学技術学校。48年に現在の名称となり、平成6年に専門士称号授与認可を受けた。13年に臨床工学専攻科を新たに開設。これまでに臨床検査学科1千288人、臨床工学専攻科95人を、全国各地の医療機関などへ送り出している。22日の閉校式には、卒業生を含む250人が集まった。

お言葉に立たれた真柱様は、昭和42年に看護学院と合同で挙行された同行の開設式における、二代真柱様のお言葉を引きながら話を進められた。その中で、二代真柱様が両校で学ぶ者の心得として「人格の陶冶」を挙げていることになれられ、日本で唯一、宗教教育すなわち本教の教義に基づく信条教育を掲げ、宗教性豊かな人格の涵養を第一義にした衛生検査技師の養成を目指すことになった創設の元一日を振り返られた。

そして、先端医療が高度化・専門家される中で、さらに徹底した技能の研鑽が
大望されるとともに、機械に振り回されない人間の資質が問われることになる
強調。「どんなに素晴らしい機器が整えられたとしても、その機器を生かすか否かは、人間の扱い方一つにかかっている」

「二代真柱様がいみじくもご指摘になった人格の陶冶こそが、今後の医療現場を左右することになると思う」として、天意医療大が人に尽くすことを自らの喜びとする本教の信条教育を基調とし、人に対する深い愛情と、自分を律する謙虚な心を胸に秘めた人材の育成を見学の目的とするところに、大方の期待が集まる由縁があると話された。

さらに「細道通りよい、往還道は通り難い(明治22年11月1日)との「おさしづ」を引いて、「先人たちの努力のうえに築き上げられた今日の往還道を、心して勇んで力強く着実に歩んでいただきたい」と要望された。

最後に真柱様は、教祖130年祭活動の中で、それぞれの持ち場立場でよふぼくとしての成人を目指すとともに、「憩の家」の理念と天理医療大学の建学の精神に照らし、伝統に根ざす人材を育成するよう求めて、話を締めくくられた。

奥村校長はいさつの中で、臨床検査技師の国家試験合格率が7年連続で100%であることになれ、「今年の卒業生が8連覇を成し遂げてくれると信じている。この伝統と歴史を天理医療大学に引き継いでもらいたい」と述べた。

閉校式フォトギャラリー



天理医学技術学校前～受付



式典会場～パーティー会場

同窓生フォトギャラリー

1期生～14期生



15期生～31期生



同窓生フォトギャラリー



32期生～45期生



今後の同窓会運営と 問合わせ先について

天理医学技術学校は平成26年3月31日付けをもって閉校しました。本校を卒業された方々にとつて、今後の同窓会運営や各種証明書(卒業証明書・成績証明書等)の発行に関してどうなるのか、気になるところです。

現段階でお知らせできることは、医技校同窓会室を天理医療大学の校舎内に設置して頂けることと、大学の臨床検査学科の卒業生は当面の間、医技校の同窓会に入会することは決まっております。また、各種証明書の発行手続きについては、天理医療大学に引き継いでもらいます。その必要がある方は大学のホームページ(<http://www.tenriyoro-zu-u.ac.jp>)を開いてもらうと、最初のページの左側に「天理看護学院・天理医学技術学校卒業生の方へ」という欄がありますので、そこをクリックして頂くと問い合わせ先が出てきます。念のため掲載致します。(木寺英明)

問合わせ先

○天理医療大学

TEL : 0743-63-7811

FAX : 0743-63-6211

E-mail : info@tenriyoro-zu-u.ac.jp

平成25年 同窓会事業報告

一、役員会議

次の通り計4回開催しました。

○第1回役員会

平成25年6月2日(土曜日)

14時30分～17時

天理医療大学 研究棟会議室

出席：市村、木寺、長岡、小松(書記)

欠席：福田、森嶋、脇本

会議内容

①「一手一ツ」創刊号発送報告と不明者84名の名簿作成

②「一手一ツ」第2号内容の検討

③平成24年度事業・会計報告と平成25年予算案作成

④閉校記念式および記念誌発行の件

⑤同窓会ホームページについて検討

⑥会報作成A3裏表(両面カラー)を検討

⑦「天医祭」への広告援助の検討

○第2回役員会

平成25年8月3日(土曜日)

14時～16時30分

天理医療大学研究棟会議室

出席：市村、木寺、長岡、福田、小松(書記)

欠席：森嶋、脇本

会議内容

①「一手一ツ」第2号原稿収集状況の確認、送付方法の検討

②閉校記念式および記念誌発行の件

○第3回役員会

平成26年1月15日(水曜日)

18時～19時20分

天理医療大学研究棟会議室

出席：市村、木寺、長岡、小松(書記)

欠席：福田、脇本、森嶋
会議内容

①同窓会と天理医療大学同窓会の今後の関係について

後日、医療大学の事務局、臨床検査学科長、看護学院同窓会長との会議を実施し、方向性を決定

②閉校式典の同窓会からの支援方法について検討

○第4回役員会
平成26年3月1日(土曜日)
15時～17時30分
天理医療大学305研究室
出席：市村、木寺、福田、小松(書記)
欠席：森嶋、脇本、長岡
会議内容

①閉校記念式の支援方法の最終調整

②会報「一手一ツ」第2号発行

天理医療大学の第2期生の包装作業の協力を得て1126通を1月26日に発送。住所不明者61件。

平成25年度天理医学技術学校同窓会 会計報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収入の部

| | |
|----------------------|-----------|
| 45期生入会費 (¥4,000×25名) | 100,000 |
| 天理医学技術学校 学生自治会 譲渡金 | 582,330 |
| 利息 | 515 |
| 前年度繰越金 | 3,251,985 |
| 合計 | 3,934,830 |

支出の部

| | |
|----------------------|-----------|
| HP管理料 (¥2,625×12ヶ月分) | 31,500 |
| 同窓会報 印刷代 | 36,198 |
| 同窓会報 郵送代 (¥80×1125件) | 90,000 |
| 閉校式 同窓生 飲物代 | 33,936 |
| 閉校式 紙コップ代 | 742 |
| 第45期生、専攻科13期生卒業式 花束代 | 5,000 |
| 次年度繰越金 | 3,737,454 |
| 合計 | 3,934,830 |

二、天理医学技術学校閉校式

平成26年3月22日(土曜日)天理医学技術学校閉講式が挙行され、同窓会員が受付、誘導、懇親会開催等の支援を行った。

三、同窓会ホームページ

<http://www.teniko-dousoukai.jp/>
平成25年度は2回更新を行った。

四、同窓会Facebook 公式ページ

「いっね」現在76名

五、同窓会Facebook 会員限定ページ

現在82名の同窓会員が登録

六、平成25年度会計報告

平成25年度は左記の通りの収支となりました。学校閉校に伴い、天理医学技術学校学生自治会の預貯金口座解消により、その残余金を同窓会へ寄付をいただいております。

以上

天理医学技術学校は永遠に！

元 天理医学技術学校 臨床工学専攻科 教務主任
現 天理よろづ相談所病院 臨床検査部 CE部門主任

杉邑芳樹(第14期生)



平成8年6月1日付けで私は天理医学技術学校に専任教員として就任しました。

私を待ち構えていたのは、新校舎への引っ越しという大仕事でした。気がつけば夏休みが終わり、9月1日には真柱様のお入り込みをいただき、新校舎落成披露が行われ、後期の授業がはじまりました。慣れない血液学実習を任せられ大変だったことが懐かしく思い出されます。

平成13年には臨床工学専攻科が新設され、その専任教員となり、臨床工学技士教育に携わることになりました。ダブルライセンスが4年間で取得可能となり、本校がさらなる進歩を遂げたように

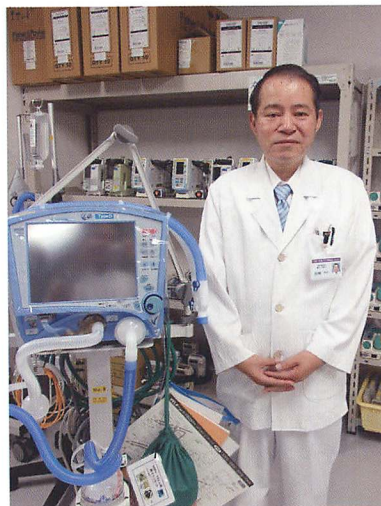
感じました。臨床検査技師ならびに臨床工学技士の双方の教育に携わることができ本当に貴重な経験が出来ましたことに感謝しています。専任教員として約18年間勤めさせて頂きましたが、教職員の皆様を始めとし、本校の教育にご協力頂きました各方面の先生方のご指導により、何とか無事に職務を全うすることが出来たように思います。この場をお借りし、厚くお礼を申し上げます。1年という輝かしい歴史の一端を学生および専任教員として担えたことを誇りに思います。

平成26年3月をもちまして本校は閉校致しましたが、47年間で臨床検査学科28名、臨床工学専攻科95名が卒業しました。同窓生の皆様は様々な立場で活躍されていることと思いますが、今一度、「おぢば」で身につけた「一手一つ」、「ひのきしん」の精神を意識して頂き、人のために各自の能力を活かすことで天理医学技術学校は永遠に発展していくことになると思います。皆様のご多幸をお祈りしております。

専攻科13年間を振り返る

元 天理医学技術学校 臨床工学専攻科 専任教員
現 天理よろづ相談所病院 臨床検査部 CE部門

田崎昭夫(第7期生)



専攻科専任教員としての13年間は、今思い返すとすべてが充実してました。それは学生たちがしっかりとした技士像を描いて専攻科に進学してきたからです。彼らは高い志を持ち、1年間を全力で駆け抜けてくれました。

最近の私は「最上級生としてあらゆる面で下級生の模範になること、社会人として恥ずかしくない行動をすること」と話すことがありました。つまり「誰からも高い評価をもらえる専攻科」であることを要求しました。それは1期生が我々の期待に応え、後輩たちがその高い評価を継承して伝統としてきたと考えたか

からです。もちろん彼らもそのことは十分承知していて、その意気込みは出席率の高さとして表われました。参拝・授業ともほぼ100%で、特に参拝は朝早くから最前列に座り下級生に範を示してくれました。

1年を通して技士が開く激励会は多く、彼らが大変かわいがってもらいました。彼らが頑張った背景には、より身近に感じることでできる技士の存在があったからではないかと思っています。指導された技士の皆さんには本当に感謝しています。

1期生から13期生、95名全員が国家試験に合格し、良い形で閉校を迎えることができました。幻の14期生も大丈夫です。

そして現在、私は病院に戻り教え子と一緒に仕事をしています。彼らの頑張っている姿を見ながら仕事ができるのは幸せなこと、と実感する毎日です。

閉校式を終えて

元 天理医学技術学校 臨床検査学科 専任教員

瀧本順三郎(第10期生)



去る3月22日の閉校式には、大勢の本校卒業生の方々がご出席下さり、また、当日は朝早くからお手伝いして下さった卒業生や医療大学関係者の方々のお蔭で、式典とその後懇親会も盛大の内無事終了でき、閉校式担当委員として深く感謝いたします。ありがとうございました。

さて、私自身と医学技術学校の関わりを振り返ったとき、入学する以前から天理の街には馴染みの深かった身でありながら、その学校名も全く知らず、臨床検査技師がどんな仕事をしているのか予備知識もないまま、22歳という現役生より4つも年上で入学しました。それが、まさか38年後に母校の閉校と共に自分もこの学校の専任教員の立場で定年を迎えるなどとは思っていませんでした。更に言えば、高校の時、最も敬遠して

いた化学に関連した科目を母校で専門に担当することになるとは、まさに人生は小説よりも奇なり的心境でした。平成17年の10月1日、天理よろづ相談所病院 臨床病理部から本校に異動したその日の朝礼で、奥村学校長が「本日より赴任する瀧本先生は、生化学が得意だから何でも質問すれば答えてくれるので・云々」と持ち上げてご紹介下さった時は、顔から火の出る思いをしたことを今でも良く覚えています。それでも、母校最後の8年6か月を、クラス担任、専門教科の講義、実習あるいは信条教育担当として各種行事等をこなしながら、忙しくも病院ではできない勉強もさせていただき、短い期間でしたが学校の歴史と共に職を終えられたことを今では感謝しています。中でも、全教員と学生自身の努力により、ここ8年間連続して国家試験合格率100%を達成できたことと、その輪の中に自分も居られたことが何より嬉しい出来事でした。

現在は、少し時間的余裕のある身ではありますが、また新たな道を探して、あれこれと模索しながら前進していきたいと思っております。皆さんの更なる活躍をお祈り申し上げます。

天理医学技術学校閉校に寄せて

元 天理医学技術学校 臨床検査学科 専任教員
現 関西医療大学保健医療学部臨床検査学科 講師

後藤きよみ(第16期生)



業生の皆様方が、さらに活躍されることを祈願しております。

私も本校の卒業生であり皆様同様、母校がなくなることに、一抹の寂しさを禁じえません。しかし、本校での思い出は、いつまでも消えることのない、心のふるさとであることには変わりないと思います。

最後になりましたが、天理医療大学におかれましては、天理医学技術学校のおき伝統を継承し、これからも長い教育の歴史を刻んでいかれることを祈念してやみません。これまで天理医学技術学校の運営に携わって下さいました多くの関係者の皆さま、ご指導、ご支援を賜りました皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

編集後記

天理医学技術学校が閉校してから早4か月が経とうとしている。天理医療大学では医技校の学生がいた頃と何ら変わりなく、毎日の授業が行われている。

7月26日からは恒例のこともおどろきがえりひのきしん、そして9月からはわが母校の特徴ある実習スタイルである、病院実習が天理医療大学の3回生に対して行われる。この伝統的教育システムは、来年度も卒業研究という形で継承されていきます。(小松方)

天理医学技術学校は、隣接する天理看護学院とともに、高度医療に対応すべく最先端の医学・医療を学ぶ環境に恵まれ、また、信条教育のもとで、患者様へ寄添える医療を学ぶことができました。また、本校は医療従事者として必要な専門知識と実践力を修得させることだけでなく、人間としての豊かさを身に付けるため、信条教育のもと必要な躰やマナーなどの教育も熱心に行われてきました。

天理で学ぶということは、一流の検査技師をめざすものの課程であり、これは、「スペシャリストが後輩を教える」という独特なシステムが構築されていればこそ、叶うことであったと思います。

日本の医療の将来は、少子高齢化が加速する中、医療に求められることも多岐に亘ると考えられます。今後も、天理医学技術学校で医療の原点を学んだ卒